

第3回柴又観光まちづくり検討会 議事録

日 時：令和4年3月15日（火）午後7時～午後8時

会 場：川甚本館 2階

出席者：宇野会長、天宮委員、石川委員、熊倉委員、齊藤（勝）委員、齊藤（國）委員、
島村委員、下田委員、須山委員、瀬尾委員、徳増委員、早崎委員、吉本委員
（五十音順）13名出席

事務局：中島観光課長、目黒都市計画課長、加納生涯学習課長、小西観光担当係長、
澁谷観光担当係長、戸上郷土と天文の博物館長、観光課職員、
株式会社K I T A B A

議 題：（1）柴又観光まちづくりにおける川甚跡地活用プラン（中間報告）（案）について
<事前送付資料>

【資料1】柴又観光まちづくりにおける川甚跡地活用プラン（中間報告）（案）

1 開会

2 議事

（1）柴又観光まちづくりにおける川甚跡地活用プラン（中間報告）（案）について

事務局より、資料1について説明

宇野会長：事務局より、「柴又観光まちづくりにおける川甚跡地活用プラン（中間報告）（案）」についてご説明いただきました。これまで、第1回検討会では、柴又の観光の現状などを確認しながら、川甚跡地活用の検討のテーマと視点を整理しました。第2回検討会では、川甚跡地活用の基本的方向性と川甚跡地の機能を整理しました。そして、今回はこれらを踏まえて、川甚跡地活用と川甚新館活用のゾーニングイメージをお示しいただきました。その前提となる考え方が24頁の「1 川甚跡地整備における空間づくり」でまとめられ、さらに、その前提となる考え方として、7頁の「将来を見据えた整備の考え方」で、長い歴史の中で柴又のまちなみが生まれ、そして、それが国の重要文化的景観として評価されるに至った、その根本の部分を抑えていただいていると思います。今回の川甚跡地の活用においても、こうした歴史を踏まえていくことは、極めて重要で、柴又らしい開発のあり方だと思います。皆様のご意見をお聞かせいただければと思います。

委員：この問題が出てから川甚跡地を毎日見えています。土手の上から見て、下からも見て、ずっと考えていました。前から主張しているのは、帝釈様の甍の見える跡地にしてもらいたいということです。土手から見て、川甚の駐車場の場所はとても良い場所です。文化的景観ということを謳っているにもかかわらず、なぜここに駐車場を持ってこないといけないのか。何のために役所がこの土地を買ってくれたのか。以前、この川甚通りを広げたのですが、観光のお客様が歩くのに車が危ないから、我々が10年位かかって門前の方々と一緒に区にお

願いして道路を広げてもらったんです。土手の方から見た時、川甚跡地は東の玄関口です。ここになぜ駐車場が必要なのか。今、河川敷に駐車場がありますが、これは柴又の景観を壊さないようにするために、わざわざ土手の方に駐車場を作ってもらった経緯があるんです。そういう思いを持って駐車場を作ってもらい、区に管理してもらっているんです。川甚跡地に駐車場があっても普段はガラガラの駐車場になりますよ。川甚も宴会がなければガラガラの状況でした。民間の駐車場もありますし、帝釈様の駐車場もあります。ここは、帝釈様に行く方の利便性は非常に良いと思いますが、柴又公園の一角として考えるならば、ここに駐車場はいらないと思います。やはり駐車場として考えている場所は庭として残したほうが良いと思います。土手から帝釈様を見る風景を大事にしたい。バスも線路沿いに駐車場があります。そこが満車になったら土手の方に行ってもらおうようにしています。観光バスは今まで賑わっていた時でも、河川敷にもありますので、そんなに台数は必要ありません。ここは東の玄関と言える所だと思います。駐車場は玄関ではない。

宇野会長： 土手から見た風景を活かしたいということと、河川敷に駐車場があるのに、あえて駐車場が必要かという問題提起ですね。

委員： 駐車場のご意見は私も同感ですが、「やさしい柴又」というイメージにあるように、障害をお持ちの方への配慮は必要だと思います。
また、新館のゾーニング図の1階にある「お休み処・喫茶」ですが、ここでお腹一杯になってしまうと伝統ある参道の飲食店に人が流れなくなるのではないかと懸念されます。そのため、川甚跡地はあくまで休憩処とするか、全く別のものを置いて、帝釈天を中心に西側と東側とが相乗効果的に人が流動して、色々な所で飲食や買物ができるようになれば良いと思います。具体的には思い浮かんでいないのですが、そのようなイメージが良いのかなと思いました。

宇野会長： 新館1階の喫茶のところですが、参道にも飲食店が数多くありますので、そちらとの兼ね合いをどうするかというご意見かと思います。

事務局： 駐車場に関するご意見、休憩処・喫茶に関するご意見について、原案通りでよろしいかどうか、または、もう少しこういった調整を加えた方が良いなどございましたら、ご意見を頂ければと存じます。

事務局： 喫茶についてのご意見ですが、今回記載しているのはあくまでもゾーニングイメージです。記載はこのまま喫茶とさせていただき、実際にどのような内容にしていくかは今後さらに検討を深めさせていただきたいと思います。

駐車場につきましては、原案ではメインとなる場所に配置する案になっておりますが、柴又は人にやさしいまちであるべきとのご意見も踏まえて、別案のイメージも記載させていただき、イメージを加えながら最終的にまとめさせていただきたいと思います。

宇野会長： それでは、今後のスケジュールなどについて、事務局よりご説明をお願いいたします。

事務局： 本日、ご決定いただきました「柴又観光まちづくりにおける川甚跡地活用プラン（中間報告）（案）」につきましては、柴又観光まちづくり検討会設置要綱第2条により、区長への報告の後、4月に葛飾区議会へのご報告を予定しております。そして、8月を目途に、本日ご決定いただいた基本的方向性のもとに、より具体の検討を行ってまいります。以降、設計、工事、オープンという段階を踏んでいくこととなりますが、具体的なスケジュールにつきましては、引き続き調整してまいります。

宇野会長： 今年度検討の集大成となる川甚跡地活用の基本的方向性である「柴又観光まちづくりにおける川甚跡地活用プラン（中間報告）」は、先程事務局からありましたとおり、駐車場や喫茶については別案を加える等修正し、基本的にはこちらの案で決定とすることといたします。

老舗料亭である川甚の閉店というのは、観光地柴又にとって、そして、文化的景観を守っていく上でも極めて大きな出来事でした。しかし、こうして地元や行政が一丸となって、夢を語り、あるべき姿を見つめ直し、そして、将来を見据えた方向性を築き上げていく今回の取組は、とても貴重な機会であったというふうに考えております。柴又のことを大切に思っていられる皆さんが集まって議論ができたこの時間は、これからの柴又の益々の発展に必ずや繋がっていくものと信じております。皆様のご協力のおかげで、今年度の検討を無事に進行することができました。改めて感謝申し上げますとともに、引き続き、お力添えを賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。それでは、進行を事務局に戻します。

委員： 終了前に少し意見よろしいでしょうか。資料は区が検討して作成されて、よく出来ていると承知しています。検討会で地元の意見を聞いて形にしようとしていることも理解しています。先程、駐車場に関する意見がありましたが、プラン案では駐車場となっており、この意見は通らないということでしょうか。進め方に何か違和感を感じてしまいます。何か意見が出たら、それについて、何らかの意見がもっとあっても良いのではないのでしょうか。

委員： 駐車場のご意見も確かに大事なことだと思います。7頁の下段には、「完成形を求めず、今後の社会状況の変化に柔軟に対応しうる整備とする」という一文が入っています。この一文が結構大事で、駐車場等のご意見もここで反映されるのだと思っています。そのため私は了承したということです。

柴又街道の拡幅や何軒かの店舗で改修等の予定があり、柴又の状況が刻一刻と変わっていくことは事実だと思います。現段階で全て決めることはあまりに無謀だと思います。この一文があることによって今後のことも対応できるというのであれば救われると思っておりますので、現段階では特に意見はないとい

うことで申し上げました。何も意見がない訳ではありませんが、この一文をもとに今後また検討していくと良いと思っています。帝釈天の裏の空き地の問題もあります。色んな問題も出てくると思いますので、今、ここを固定してしまうと動きがとれないのかなというのを感じますので、現段階ではこちらでよろしいのかなと思います。

委員 : 皆様のご意見を聞いて24頁のゾーニングを見たときに、空想の広がりがない気がします。日本庭園は山本亭や帝釈天にもあるので、川甚跡地に日本庭園を造ると庭園だらけになると思います。また、一つ一つの庭園の良さが薄れてしまう気がします。もう少し検討した方が良いと思うので、急いで決めなくて良い気がします。川甚に日本庭園を造ると、3つの庭園が近くに位置することになり、また、河川敷は公園のような緑地になっています。庭園の比重が大きくなるので、これらを見て回って何を感じるか。半分位見ると「もういいや」となるのではないかと気になります。もう少しこの部分を検討いただければと思います。

事務局 : 今回ゾーニングイメージとしてまとめたものは、今までの皆様のご意見をざっくりと図に落としたイメージです。これから設計段階でどういうデザインにするか、どういう空間にするかを皆様と深めていきたいと思っています。今回は最初のイメージをお示ししたという段階ですので、これで決定というものではありません。この先検討を深めていきたいと思っています。

委員 : 24頁のゾーニングイメージは機能を示しただけですが、図面で示すと「こうなる」と見えてしまうと思います。そのため、中間報告でこれを示すと、こういうものができるかと誤解を生むかもしれません。駐車場の話も出ましたが、土手から見る見渡しの良い風景も景観的に重要だと感じています。ゾーニングイメージの示し方は、機能的なものを示す図に変えた方が良いと思います。

事務局 : 固定化してしまうと良くないと思いますので、先程いくつかのパターンをお示しすると申し上げましたが、それもイメージが先行して良くないということであれば別の表現を検討したいと思います。しかし、このようにイメージとしてお示ししたことによって、今のようなご意見をいただけて議論が進んだのかなと思っています。

委員 : あくまでイメージという認識で見えていましたが、図面的に示すとイメージが固定化してしまうと思います。加えて、ゾーニングイメージやフロアイメージを見るとスカスカしている気がします。今日、この川甚さんに来てみて、空間が広いことを改めて実感しました。体験展示コーナーなども、よくある道の駅のようになるのかなと思ってしまいます。図と少ない説明文だけだと期待感が弱まると感じましたので、ゾーニングイメージにおいても、はっきりと打ち出したいということであれば見せ方を強くする、また、駐車・駐輪ゾーンが厚め

に説明があるので、見せ方をもう少し工夫すると良いと思います。

委員 : イメージの案ということですので、具体的にどうということではありませんが、まず、川甚跡地を考える上で、あまり神明会のことは意識しなくて良いと思います。意識しすぎると何にもできなくなり、つまらない建物になってしまうと思います。

委員 : 神明会をあまり気にしなくても良いのではないかというお話ですが、文化的景観にしても川甚跡地の検討にしても、駅から神明会の参道、帝釈さん、川甚跡地、山本亭、寅さん記念館は大切なゾーンで、結局は柴又のメインなんです。それ以外の方々や農家の方々などは、腹の中では自分は関係ないと思っている人がほとんどだと思います。やはり柴又を盛り上げるのは参道で、そのためにこうして皆が集まっているのだと思います。

委員 : 神明会は関係ないということではなく、あまり意見を聞きすぎると、何を売るな、食べ物を売るなになってしまう。結局自動販売機だらけの建物になってしまったら、それは寂しくてつまらない建物が出来上がってしまいます。柴又全体を考えた時に、人を呼べる施設が出来た方が良いので、そういう意味で申し上げたものです。

委員 : 22 頁には川甚跡地の機能が記載されていますが、ここに 24 頁の日本庭園の話が出てきません。その流れの中で、いきなり日本庭園の話が出てくるので、その部分の説明が必要だと思います。ここは機能の表現で良いのではないでしょうか。

宇野会長 : 今回のゾーニングはあくまでもイメージで、7 頁にあるように今後の社会状況の変化の中で柔軟に対応していこうということで、これで決まりという訳ではありません。今回、皆様からいただいた意見を取り入れながら、いくつかゾーニングパターンをお示しするのか、機能で整理してお示しするのか、そこは改善すればよろしいかと思しますので、それを踏まえてこの報告書を修正し、まとめたいと思います。

事務局 : 皆様のご意見を踏まえて、修正を加えさせていただきたいと思います。

3 閉会

事務局 : 皆様、貴重なご意見を頂き、誠にありがとうございました。皆様からいただいたご意見を生かしながら、より良いものを目指してまいりますので、引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。